



お客さまとご家族の
人生の伴走者となる



決算説明資料

2027年3月期
第2四半期(中間期)

2026.10.29 アイザワ証券グループ株式会社 証券コード:8708

≡ アイザワ証券グループ



Agenda

サマリー	P 2
KPIの進捗状況	P17
トピックス	P20

本資料に関して

本資料は、2027年3月期第2四半期(中間期)決算の業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料は2026年9月末日現在のデータに基づいて作成されております。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

企業理念

Purpose

私たちの存在意義

より多くの人に より豊かな生活を

Vision

私たちのあるべき姿

資産運用・資産形成を通じて
お客さまとご家族の人生の伴走者となる

Values

私たちが大切にしている価値観

チャレンジ

リレーション
シップ

プロフェッショナル
リズム

チームワーク

PVVイメージ動画

PVVのイメージ動画をアイザワ証券グループホームページに掲載しております。
<https://www.aizawa-group.jp/company/pvv.html>



アイザワ宣言

お客さまへ

私たちはお客さまの未来を見据えた
金融サービスを提供します

株主の皆さまへ

私たちは持続的な成長を通じて
企業価値向上に努めます

社会へ

私たちは地域との繋がりを大切に
社会の発展に貢献します

従業員の皆さんへ

私たちは社員一人ひとりを尊重し
成長と挑戦を後押しします

営業収益

11,695 百万円

前年同期比: + 17.7%

ストック商品預り資産

6,813 億円

前年同期末比: + 31.9%

親会社株主に帰属する純利益

1,836 百万円

前年同期比: + 83.5%

総預り資産

2兆6,650 億円

前年同期末比: + 15.4%

ROE

7.6%

(27年3月期2Q累計利益を年率換算)

前期比: + 1.6pt

実質ストック収益^{※1} 実質販管費カバー率^{※2}

38.2%

前期比: + 2.6pt

※1 実質ストック収益: 信託報酬とラップ報酬の合計額から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料分を除外した収益額

※2 実質販管費: アイザワ証券の販売費・一般管理費から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料を除外した額

社長メッセージ

当社はいま大きな改革を実行中であり、「お客さまとご家族の、資産運用・資産形成の伴走者」となることを掲げ、お客さまのライフプランの実現にむけて長期にわたり伴走支援するゴールベースアプローチ(GBA)型営業を推進しております。このGBA型営業への転換にもっとも多くのリソースと時間を割くことが、将来的な企業価値の最大化につながると確信して取り組んでおります。

当第2四半期も、お客さまとご家族の想いを傾聴するプロセスに注力した結果、余剰資産(サテライト資産)にとどまらず、生活基盤や将来設計の土台となるコア資産をお預けいただく事例が増え、1回あたりのお取引においてお預けいただく資産額が増加しました。また、ご家族を中心としたご紹介件数も、増加傾向にあります。それらの結果として、最重要KPIの一つであるストック商品(投資信託とラップ商品)預り資産は、2026年9月末時点で6,813億円となり、前年同期(2025年9月)末比で1,648億円増(+31.9%)と大幅に増加しました。言うまでもなく、これは相場に左右されにくい中長期の安定的な収益基盤そのものです。

GBA型営業による継続的な対話から生まれる安心感や信頼が、大きな収益につながる道として形になりつつあります。何よりも、社員の納得感とやりがいにもつながっており、当社のありたい姿の実現に向けて力強く前進している確かな手応えを感じております。この営業スタイルこそが中長期の収益拡大をもたらすものと確信している理由が、ここにあります。

第2四半期(累計)の業績は、証券事業における上記の取組みによって投資信託の募集手数料や信託報酬が増加したことに加え、投資事業においてファンドからの収益を計上したことにより、7億8百万円の営業利益を確保しました。また、政策保有株式や投資事業における投資有価証券の売却により特別利益を計上した結果、親会社株主に帰属する純利益は18億36百万円となりました。

引き続き改革を徹底し、ステークホルダーの皆さまのご期待にお応えするべく、企業価値向上に全力を注いでまいります。

資本コストや株価を意識した経営

資本コストを安定的に超える利益を計上できる事業構造へ変革することで企業価値向上を目指す
毎年度のROE水準を意識すると同時に、安定的にROE8%以上を達成できる事業構造・収益構造への変革を行い、
中期的な企業価値向上を目指す方針

企業価値の向上に資する各種施策

PBRの向上(企業価値の向上)

ROE向上施策×PER向上施策

証券事業の変革

株主還元策

投資事業のグレードアップ

IR強化

運用事業の再構築

人的資本投資への取組み強化

生産性の向上

サステナビリティ推進

コンプライアンスの強化

リスク管理の強化

財務戦略

連結貸借対照表

2026年3月末

総資産 1,243億円

流動資産
817億円負債
738億円固定資産
425億円純資産
504億円

将来イメージ

総資産

流動資産

負債

固定資産

純資産

財務レバレッジの活用

財務レバレッジの活用等による資本効率重視の財務戦略を実行し、効率的な事業運営を行う。

社債の発行

財務安定性の向上を企図し、将来の成長に必要な資金を機動的に調達することを目的として社債を発行。
2026年9月末時点で残高121億円。

「お客さまとご家族の資産運用・資産形成の伴走者」としてのビジネスモデルを確立し、
安定的にROE目標を達成できる事業構造・収益構造に転換する3年間と位置付ける

アイザワの目指す「伴走者」とは

お客さまとご家族の資産運用・資産形成に関して、継続的に話を傾聴し、それぞれのライフステージに合った
提案・アドバイスを送り、世代を超えて対話を続ける、**長期にわたる人生のパートナー**です。

環境認識

「対面による継続的対話・
アドバイス」へのニーズの高まり

- 「貯蓄から投資へ」の大きな流れにより、個人の資産運用・資産形成の関心が集まる
- 長期目標に対して、**対話による継続的アドバイスへのニーズ**が高まっている

中期経営計画 (2025年4月～2028年3月)

事業構造・ 収益構造の転換

- 「ゴールベースアプローチ型」営業と「地域密着」を徹底することで「継続的・長期的にお客さまに寄り添う」価値を提供
- 毎年度の利益水準に注意しつつ、**中期的な企業価値の向上を最優先**

当社が目指す将来の姿

資産運用・資産形成を通じて
お客さまとご家族の
人生の伴走者となる

- 長期にわたる人生のパートナーとして、**お客さまとご家族の人生の伴走者**となる
- 市況に左右されない、安定的な経営体制を実現し、**安定的にROE目標を達成**

—— ゴールベースアプローチ(GBA)型営業の徹底

「お客さまとご家族の資産運用・資産形成の伴走者」となることを目指し、お客さまとご家族との強固なリレーションを構築

- GBA型営業を通じて、ストック商品(投資信託とラップ商品)の残高積み上げに注力し、相場環境に左右されにくい安定的な収益構造の実現を目指す
- 「お客さま本位の業務運営」と親和性の高いGBA型営業を実践することで、国が推し進める「貯蓄から投資へ」の流れを後押し
- GBA型営業を通じて、アイザワ宣言(お客さまへ)を実践していく



アイザワ証券が目指す

ゴールベースアプローチ(GBA)型営業 とは

- お客さまのライフプランに寄り添い、お客さまごとに達成したいゴールに向けたプランをご提供
- 個別売買にとどまらないトータルサポートで資産運用・資産形成を伴走支援



投資の目的

- 将来の計画やライフスタイルの実現に向けたゴールの達成



アイザワ証券の
提供価値

- ゴール達成のためのプラン提供
- ライフプランに沿ったトータルサポート
- ゴール達成に向けたサポート・フォロー
- ソリューションサービスの提供



お客さまとの関係性

- お客さまのライフプランに寄り添えるようなリレーション

アイザワ宣言(お客さまへ)の実践へ

私たちは、お客さまの未来を見据えた
金融サービスを提供します

お客さまとご家族が資産運用・資産形成の
ゴールを実現するまで寄り添います。

継続的にお客さまとご家族と対話することで、
長期にわたるパートナーとなります。

お客さまからの信頼を最優先に考え、
目先の利益を追求する取引・提案をしません。

—— ゴールベースアプローチ(GBA)型営業を2026年4月より全店舗で推進

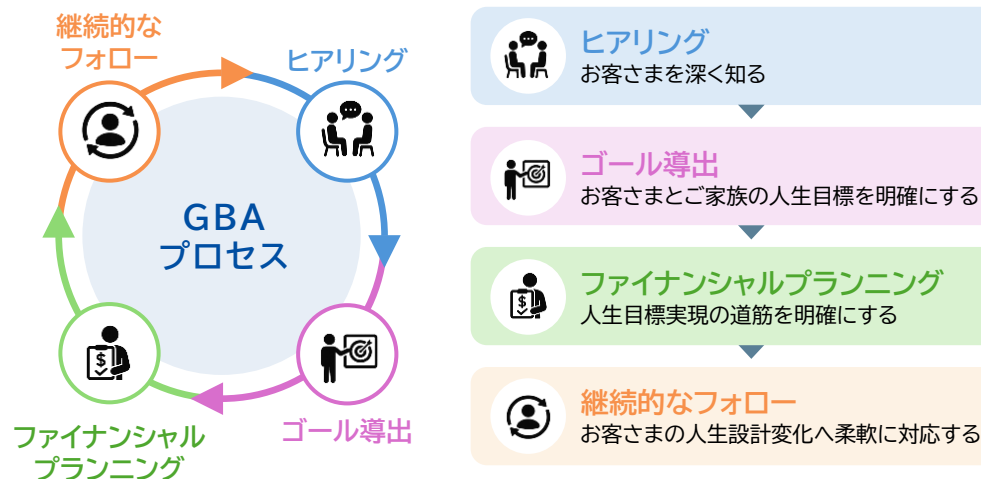
2025年4月から一部の店舗にて試行段階であったGBA型営業は、2026年4月より「アイザワ証券におけるスタンダード」として全店展開

- 「ヒアリング」は、お客さまの家族構成や資産状況、価値観等お客さまを深く知るプロセスであり、アイザワ証券のGBA型営業では重要なプロセスと位置付け、お客さまとご家族とのリレーションの深化につなげる
- GBA型ラップサービス「スマイルゴール」とGBA型投資信託ポートフォリオ「 α (アルファ)ポート」※1の成約プロセスの適正性を厳格に審査・承認し、質の高い案件の積み上げを目指す

※1「 α (アルファ)ポート」とは、お客さまのゴール達成にふさわしいと考えられる複数の投資信託の組み合わせ(ポートフォリオ)を提案するサービス

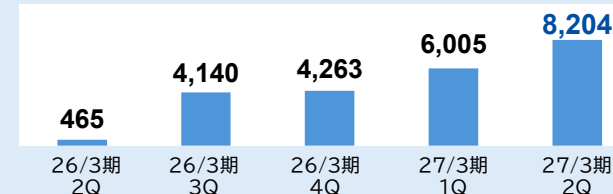
GBA型営業のプロセス

GBAプロセスとはお客さまとご家族の人生目標実現のために以下の4つのステップを循環させ、伴走することである。

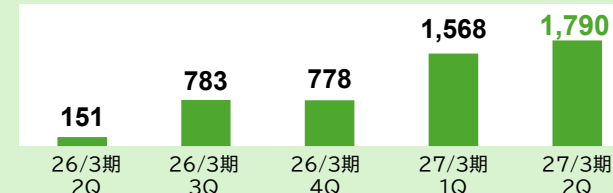


ヒアリング件数と成約件数の推移

ヒアリング件数の推移

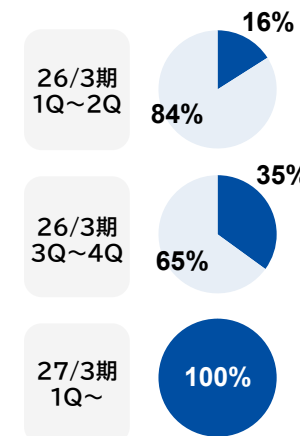


成約件数※2の推移



※2「スマイルゴール」及び「 α (アルファ)ポート」の成約のうち、地域統括責任者によるプロセスの適正性の承認件数

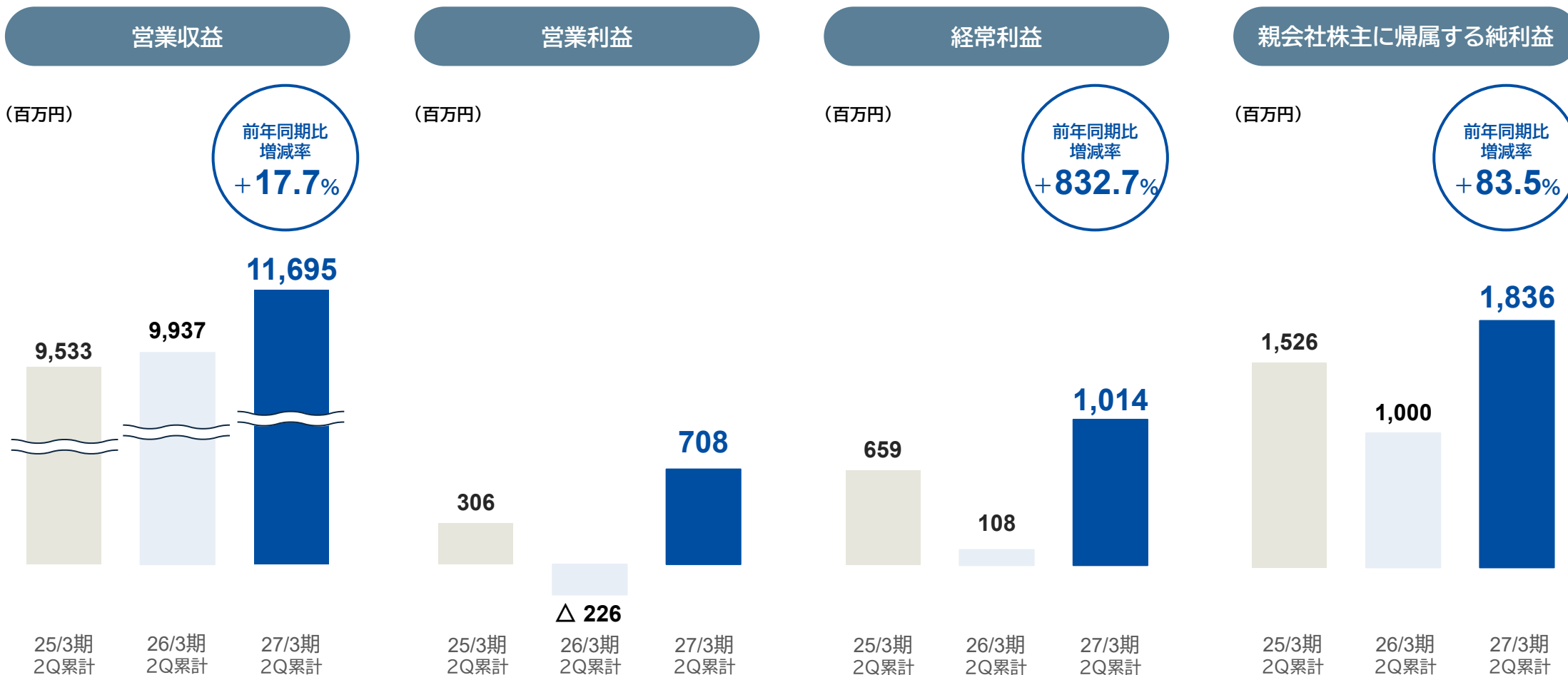
■ GBA型営業を推進する店舗
■ 従来店(コンサルティングプラザを除く)



2027年3月期2Q累計

決算概要(過去同期比累計) - [連結]

- 営業収益は、証券事業における投資信託の募集手数料や信託報酬、ラップ商品に係る投資顧問報酬等の増加に加え、投資事業における投資先ファンドからの収益計上により、前年同期(2026年3月期2Q累計)比17.7%増収
- 上記の結果、営業利益は黒字転換し、7億8百万円
- 親会社株主に帰属する純利益は、特別利益(投資有価証券売却益)の計上により、同83.5%増の18億36百万円



2027年3月期2Q

決算概要(四半期推移) - [連結]

アイザワ証券グループ

- 営業収益は、証券事業における投資信託の募集手数料や信託報酬の増加に加え、投資事業における投資先ファンドからの収益計上により、前四半期(2027年3月期1Q)比1.2%増の58億82百万円
- 上記の結果、営業利益は同97.3%増の4億70百万円

(百万円)	2Q	26/3期 3Q	4Q	27/3期 1Q	27/3期 2Q	26/3期 2Q比 増減率	27/3期 1Q比 増減率	26/3期 2Q累計	27/3期 2Q累計	前年同期比 増減率
営業収益	5,695	5,609	5,426	5,812	5,882	+3.3%	+1.2%	9,937	11,695	+17.7%
販売費・一般管理費	5,097	5,033	5,172	5,444	4,983	△2.2%	△8.5%	9,673	10,428	+7.8%
営業利益又は営業損失(△)	349	319	△66	238	470	+34.7%	+97.3%	△226	708	—
経常利益	446	498	59	447	567	+27.1%	+26.8%	108	1,014	+832.7%
税引前利益	1,172	1,462	1,132	1,297	1,405	+19.8%	+8.3%	1,561	2,702	+73.1%
親会社株主に帰属する純利益	873	1,075	676	1,054	782	△10.5%	△25.8%	1,000	1,836	+83.5%
1株当たり 四半期純利益(円)	28.04	34.54	21.70	33.82	25.05	—	—	32.18	58.87	—

2027年3月期2Q累計

純利益 増減要因(累計)– [連結]

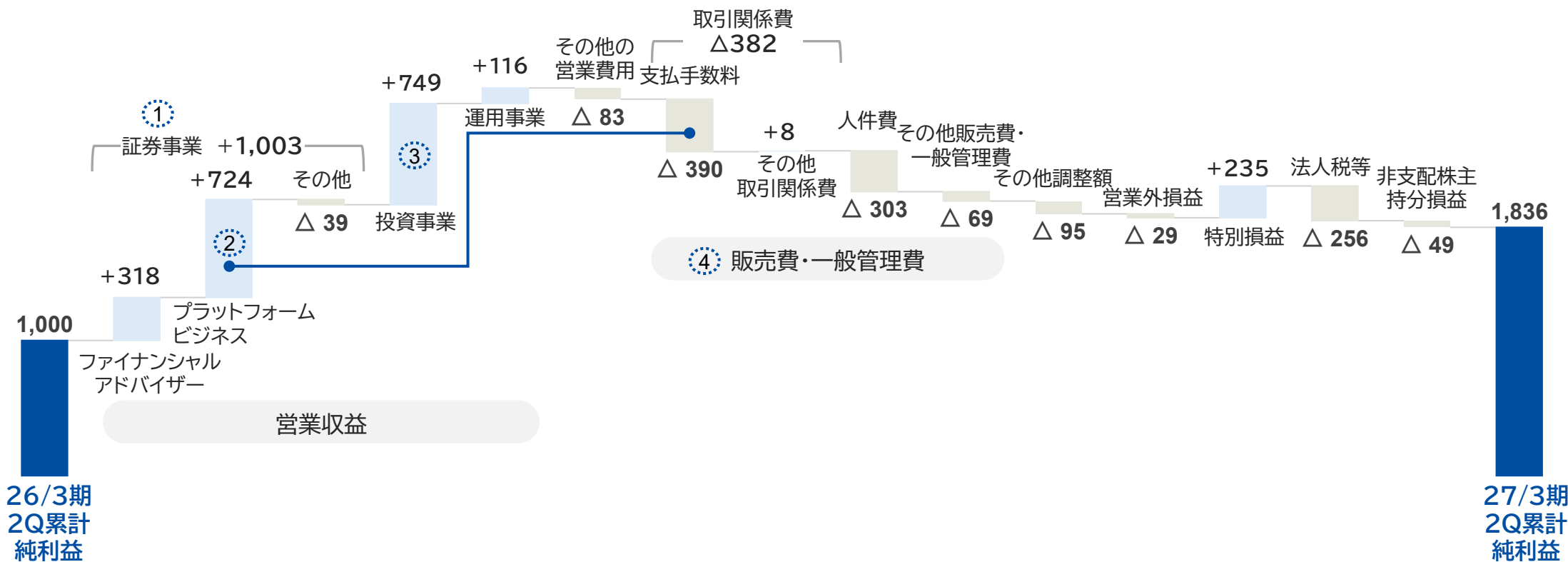
アイザワ証券グループ

- 証券事業の営業収益は、投資信託の募集手数料や信託報酬、ラップ商品に係る投資顧問報酬等の増加により、前年同期(2026年3月期2Q累計)比10億3百万円増加・・・①
- 証券事業のプラットフォームビジネス[※]の拡大による営業収益の増加に伴い、費用面では支払手数料が増加・・・②
- 投資事業の営業収益は、投資先ファンドからの収益計上により、前年同期(2026年3月期2Q累計)比7億49百万円増加・・・③
- 販売費・一般管理費は、人件費や支払手数料の増加等により、同7億55百万円増加・・・④

※プラットフォームビジネスとは、アイザワ証券がプラットフォーマーとなり、提携する金融商品仲介業者(IFA業者)や預金金融機関が取引を媒介し、個人のお客さまにサービスを提供するビジネス

(百万円)

経常利益増減 +905



2027年3月期2Q累計

決算概要(事業別)

アイザワ証券グループ



証券事業

お客さまの資産形成を
サポートするため、資産運用
コンサルティング等を行う

営業収益

10,495百万円

前年同期比 +10.6%

税引前利益

507百万円

前年同期比 +80.1%

- 投資信託の募集手数料や信託報酬、ラップ商品に係る投資顧問報酬等が増加したことにより営業収益増加

アイザワ証券

LIFE DESIGN PARTNERS CO., LTD.



投資事業

有価証券、不動産、
成長企業に対して
自己投資を行う

1,154百万円

前年同期比 +185.0%

1,687百万円

前年同期比 +47.7%

- 投資先ファンドからの収益計上により営業収益増加
- 投資有価証券の売却益(特別利益)10億62百万円計上



アイザワ・インベストメンツ株式会社



運用事業

機関投資家を中心に
オルタナティブ運用等の
運用サービスを提供

237百万円

前年同期比 +96.8%

△8百万円

前年同期比 一%

- ファンド費用の計上により赤字
業績改善のため運用残高の増加を図る

あいざわアセットマネジメント
AIZAWA ASSET MANAGEMENT

グループ本社・その他

△191百万円

517百万円

- 持株会社(アイザワ証券グループ株式会社)における収益
(政策保有株式の売却益等)・費用及びセグメント間取引消去



グループ連結計

11,695百万円

前年同期比 +17.7%

2,702百万円

前年同期比 +73.1%

アイザワ証券グループ



証券事業

お客様の資産形成をサポートするため、資産運用コンサルティング等を行う

アイザワ証券

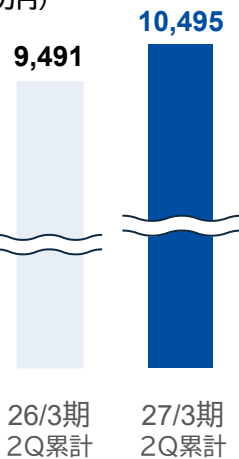


LIFE DESIGN PARTNERS CO., LTD.



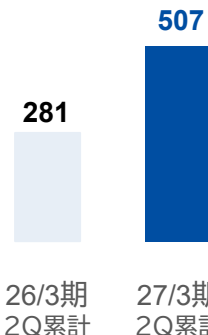
営業収益

(百万円)



税引前利益

(百万円)



ファイナンシャルアドバイザー部門

ゴールベースアプローチ(GBA)型営業への転換を行っている証券事業変革の本丸
GBA型営業を通じて、ストック商品(投資信託とラップ商品)の残高積み上げに注力し、相場環境に左右されにくい安定的な収益構造の実現を目指す

- 総預り資産及びストック商品預り資産が増加
- ストック商品預り資産の増加により、信託報酬やラップ商品に係る投資顧問報酬が増加

- ▶総預り資産及びストック商品預り資産についてはP.12をご参照ください
- ▶信託報酬と投資顧問報酬についてはP.29をご参照ください

プラットフォームビジネス部門
(IFA、金融機関連携)

プラットフォームビジネスとは、アイザワ証券がプラットフォームとなり、提携する金融商品仲介業者(IFA業者)や預金金融機関が取引を媒介し、個人のお客様にサービスを提供するビジネス

アイザワ証券のプラットフォームビジネスの戦略

- 金融商品販売を本業としないIFA業者(主に保険代理店)や預金金融機関のアドバイザーをサポート
- 資産形成層のお客様の積立投資口座の獲得と積立金額の増加に取り組む
- 新たな顧客基盤の拡大を図る

(百万円)	26/3期 2Q累計	27/3期 2Q累計	前年同期比 増減率
営業収益	9,491	10,495	+10.6%
└ ファイナンシャルアドバイザー	6,185	6,503	+5.1%
└ プラットフォームビジネス	2,549	3,274	+28.4%
└ その他	756	717	△5.2%
税引前利益	281	507	+80.1%

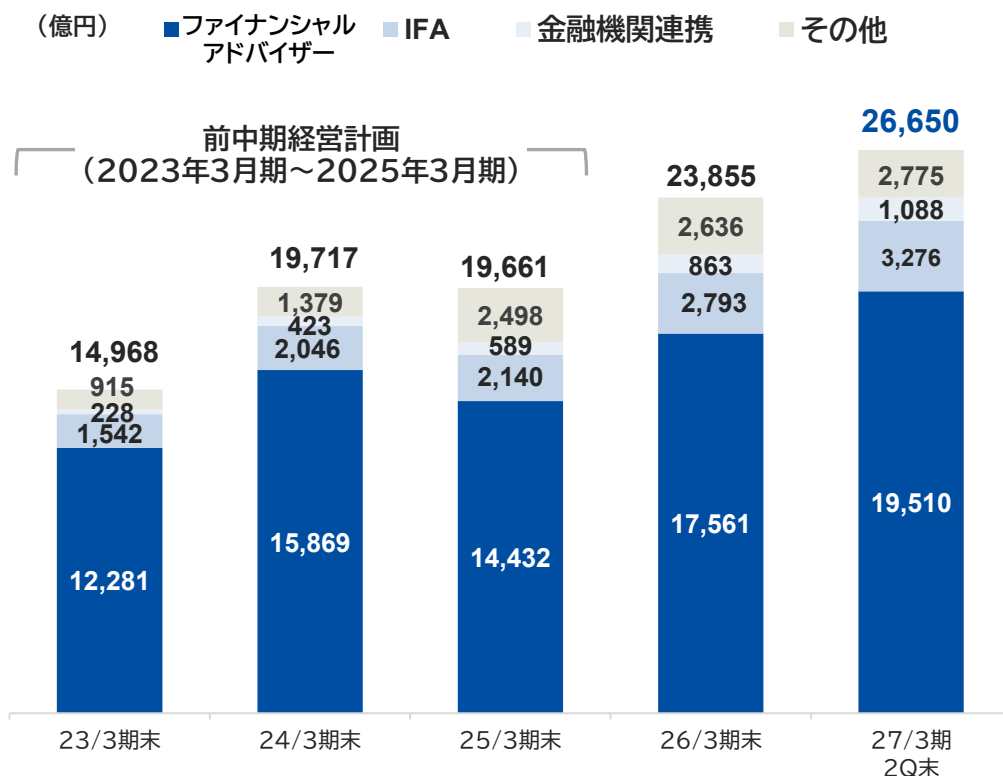
2027年3月期2Q末

決算概要(事業別)：証券事業 部門別 預り資産の状況

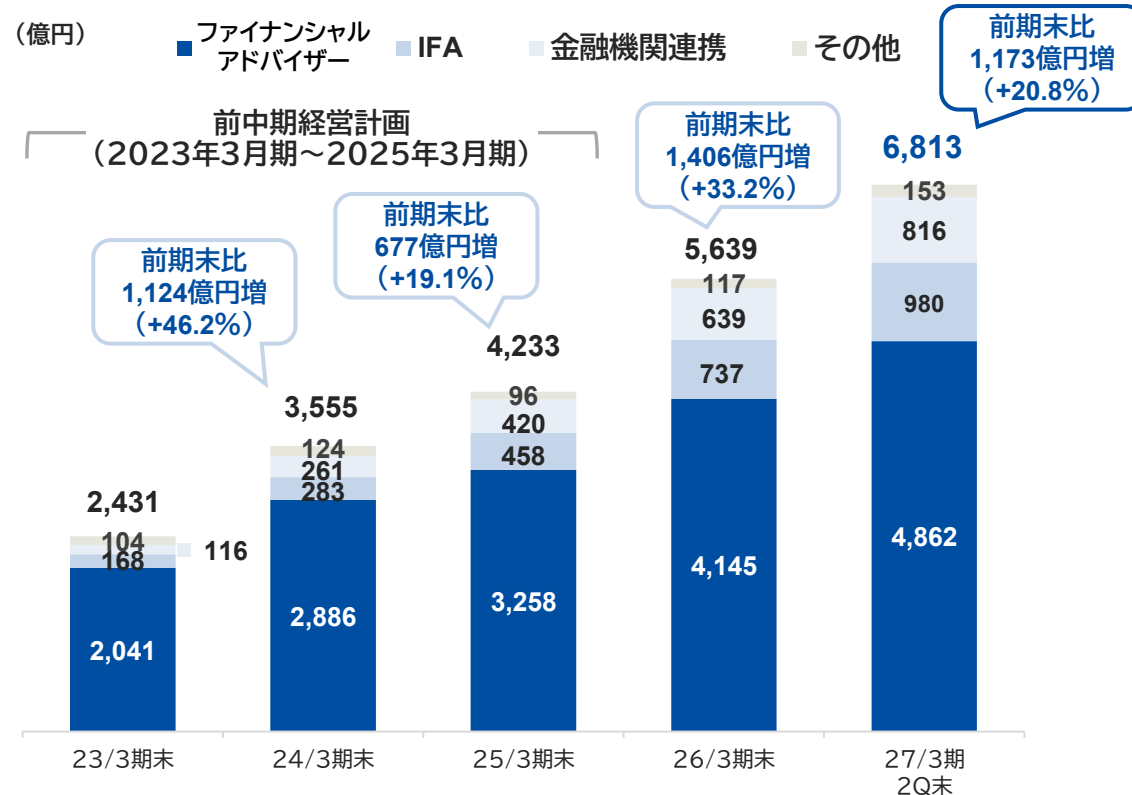
アイザワ証券グループ

- 総預り資産は2兆6,650億円となり、2028年3月末までのKPI目標である2兆5,000億円を上回った
- 中期経営計画2年目となる2027年3月期の第2四半期(2026年9月)末は、すべての部門において、総預り資産及びストック商品預り資産が前期(2026年3月期)末より増加

部門別 総預り資産



部門別 スtock商品預り資産



▶ 商品別の内訳はP.18をご参照ください

2027年3月期2Q末

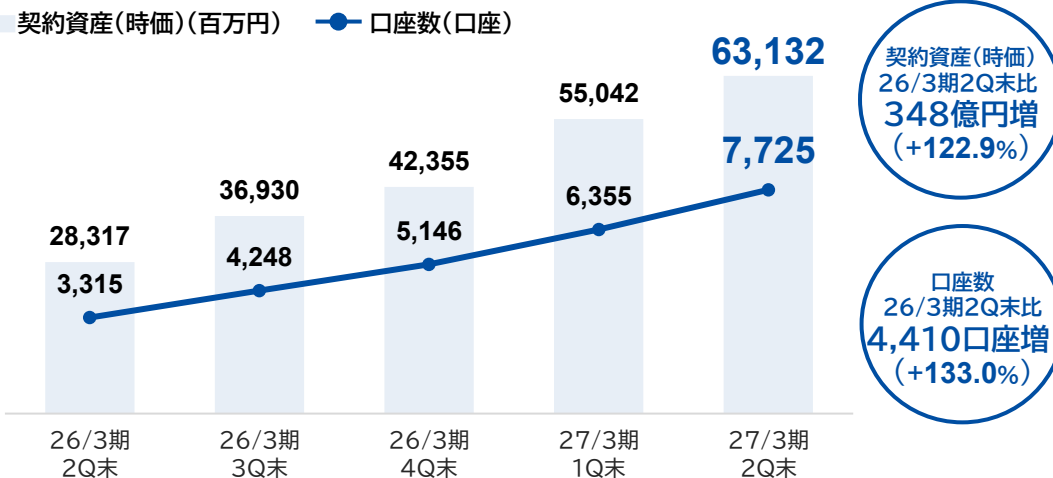
決算概要(事業別)：証券事業 投資一任契約資産(ラップ商品預り資産)の状況

アイザワ証券グループ

ゴールベースアプローチ(GBA)型営業を徹底した結果、GBA型ラップサービス「スマイルゴール」の契約資産は前年同期(2026年3月期2Q)末比348億円増加(122.9%増)

契約資産(時価)(百万円)、口座数(口座)		26/3期			27/3期		26/3期2Q比	27/3期1Q比
		2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増減率	増減率
スマイルゴール	契約資産(時価)	28,317	36,930	42,355	55,042	63,132	+122.9%	+14.7%
	口座数	3,315	4,248	5,146	6,355	7,725	+133.0%	+21.6%
ブルーラップ	契約資産(時価)	35,008	38,710	38,143	41,380	38,494	+10.0%	△7.0%
	口座数	1,415	1,443	1,491	1,532	1,546	+9.3%	+0.9%
ファンドラップ	契約資産(時価)	48,732	48,552	46,027	48,105	44,893	△7.9%	△6.7%
	口座数	4,780	4,531	4,354	4,194	4,044	△15.4%	△3.6%
合計	契約資産(時価)	112,059	124,194	126,525	144,528	146,519	+30.8%	+1.4%
	口座数	9,510	10,222	10,991	12,081	13,315	+40.0%	+10.2%

ゴールベースアプローチ型ラップサービス「スマイルゴール」



ラップサービス

スマイルゴール

お客さま一人ひとりの目標(ゴール)から逆算して考えるゴールベースアプローチ型ラップサービス
アフターフォローを通じてお客さまとご家族と長期的なリレーションを築きます

ブルーラップ

日本株の投資一任運用サービス
・アイザワSMAスーパーブルーラップ
・アイザワSMAブルーラップ(新規の取扱い中止)

ファンドラップ
(新規の取扱い中止)

国際分散投資により、運用・管理する一任運用サービス



投資事業

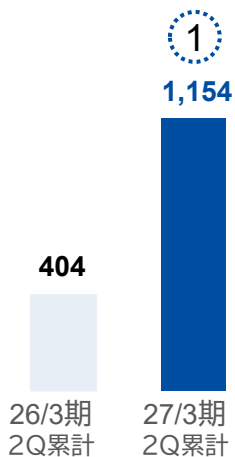
有価証券、不動産、成長企業に対して自己投資を行う
投資資産からの安定収益の確保を目指し、グループ連結業績の安定化と資産収益性向上に貢献する
もうひとつの柱



アイザワ・インベストメンツ株式会社

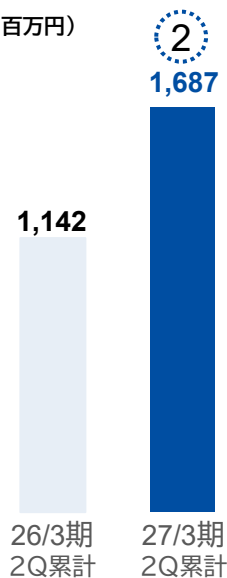
営業収益

(百万円)



税引前利益

(百万円)



投資方針

- 各資産の特性に応じた収益の獲得により、中期的な投資収益の極大化を目指す
- 上場株式、不動産資産で利益を計上しながら、非上場資産で中期的な利益の最大化を目指す

投資事業における投資有価証券の売却益(特別利益)

2026年4月～2026年9月

10億62百万円

投資有価証券売却益(特別利益)の計上により、2027年3月期2Q累計の投資事業における税引前利益は16億87百万円と、グループ連結純利益に貢献

- ① アイザワ・インベストメンツの投資先ファンドからの収益計上により、営業収益は前年同期(2026年3月期2Q累計)比185.0%増の11億54百万円
- ② 投資有価証券売却益(特別利益)10億62百万円を計上し、税引前利益は16億87百万円

(百万円)	26/3期 2Q累計	27/3期 2Q累計	前年同期比 増減率
営業収益	404	1,154	+185.0%
税引前利益	1,142	1,687	+47.7%

貸借対照表 - [連結]

資産の部(百万円)	26/3期末	27/3期2Q末	増減率
流動資産	81,770	98,361	+20.3%
① 現金・預金	24,239	38,529	+59.0%
預託金	27,008	30,393	+12.5%
営業投資有価証券	10,949	10,603	△3.2%
信用取引資産	15,306	12,885	△15.8%
その他の流動資産	4,266	5,948	+39.4%
固定資産	42,554	46,783	9.9%
有形固定資産	11,247	11,275	0.2%
投資その他の資産	31,265	35,470	13.4%
投資有価証券	28,532	32,760	14.8%
資産合計	124,324	145,145	16.7%

主なポイント

① 現金・預金	預り金の増加により現金・預金が増加
② その他の預り金	顧客の譲渡益に係る税金の預り増加により、その他の預り金が増加
③ その他有価証券評価差額金	保有株式の株価上昇に伴い、その他有価証券評価差額金が増加

負債・純資産の部(百万円)	26/3期末	27/3期2Q末	増減率
負債の部			
流動負債	61,853	81,222	+31.3%
信用取引負債	2,353	3,653	+55.2%
顧客からの預り金	21,147	23,515	+11.2%
② その他の預り金	9,182	26,508	+188.7%
短期借入金	7,512	7,511	△0.0%
短期社債	12,085	12,095	+0.1%
固定負債	11,797	12,269	+4.0%
長期借入金	5,315	5,145	△3.2%
負債合計	73,837	93,693	+26.9%
純資産の部			
株主資本合計	35,321	35,049	△0.8%
利益剰余金	27,925	27,557	△1.3%
その他の包括利益累計額	12,163	13,516	+11.1%
③ その他有価証券評価差額金	11,174	12,409	+11.1%
純資産合計	50,486	51,451	+1.9%
負債・純資産合計	124,324	145,145	+16.7%

株主還元方針

2024年4月26日に公表したとおり、2025年3月期から2028年3月期の間、
配当と自己株式取得による株主還元を総額200億円以上実施する

普通配当及び自己株式取得の方針

総還元性向(連結ベース)

50%以上

※総還元性向：(自己株取得金額+普通配当総額)÷純利益

株主資本配当率(DOE)

2%程度を上回る

※DOE：普通配当金額÷株主資本

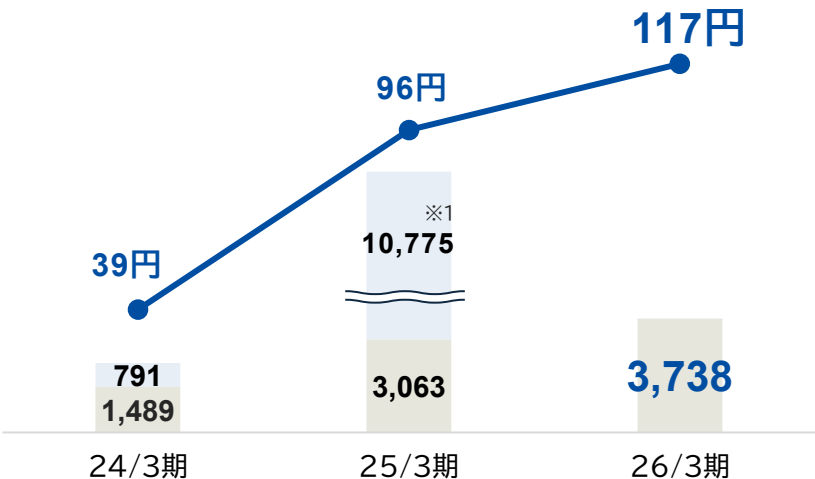
特別配当^{※2}の実施方針

1株当たり 年間**70円**

2025年3月期～2028年3月期

株主還元の推移

(百万円) 配当総額 自己株取得額 1株当たり配当額



普通配当 DOEの推移	3.32%	2.05%	4.28%
普通配当+特別配当 DOEの推移	—	4.37%	10.65%

〈参考〉

	1株当たり配当金								
	中間配当金			期末配当金			年間配当金		
	普通 配当	特別 配当	合計	普通 配当	特別 配当	合計	普通 配当	特別 配当	合計
2025年3月期	13円	35円	48円	13円	35円	48円	26円	70円	96円
2026年3月期	13円	35円	48円	34円	35円	69円	47円	70円	117円
2027年3月期	13円	35円	48円	未定	35円 (予定)	未定	未定	70円 (予定)	未定
2028年3月期	未定	35円 (予定)	未定	未定	35円 (予定)	未定	未定	70円 (予定)	未定

※1 2025年3月期に自己株式の取得(取得株数6,163,900株、取得価額の総額10,775,065,200円)を実施

※2 特別配当の金額は、2024年4月26日時点で入手可能な情報に基づく一定の前提(仮定)及び将来の予測等に基づき見込んでいる金額であり、今後、分配可能額規制その他の法令上の規制や経営環境の変化等の事情により変動する可能性があります。

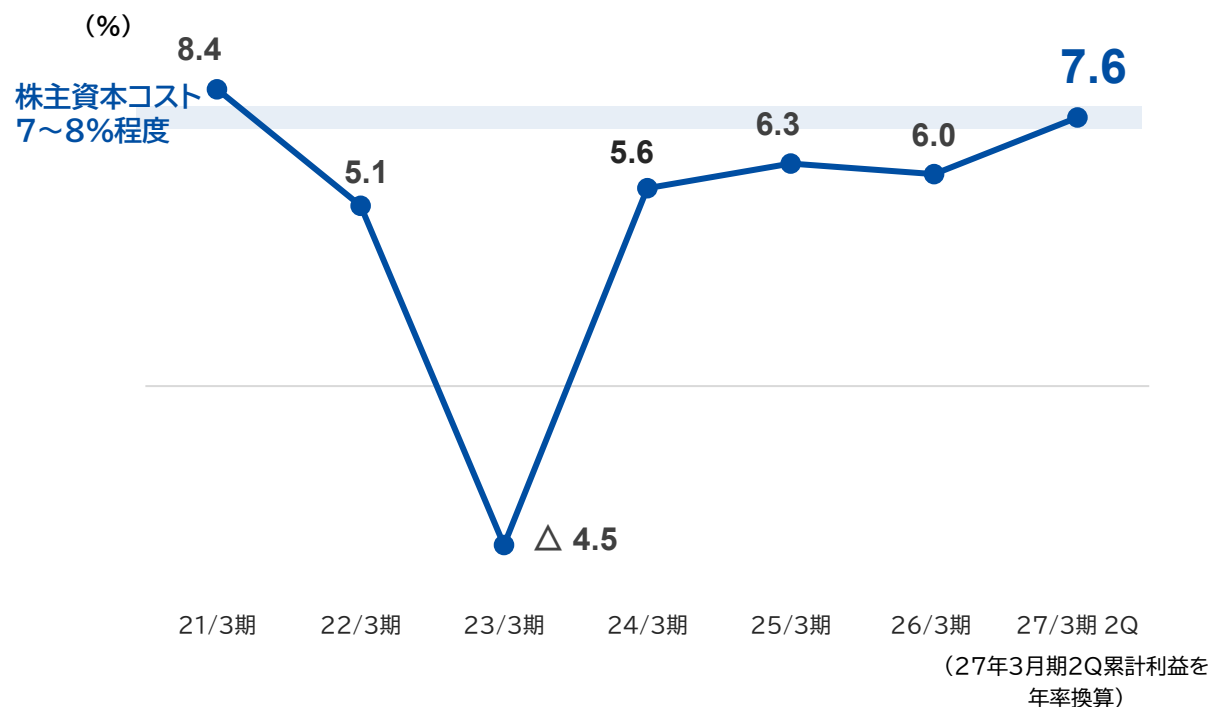
ハイライト

2027年3月期2QのROE(年率換算)は7.6%となり、PBRは1.09倍と1倍を上回る結果となった。引き続き事業構造・収益構造の変革を通じて中長期的な企業価値を向上させることで、株価並びにPBRを継続的に向上させ、当社の資本コストや株価を意識した経営を体現していく

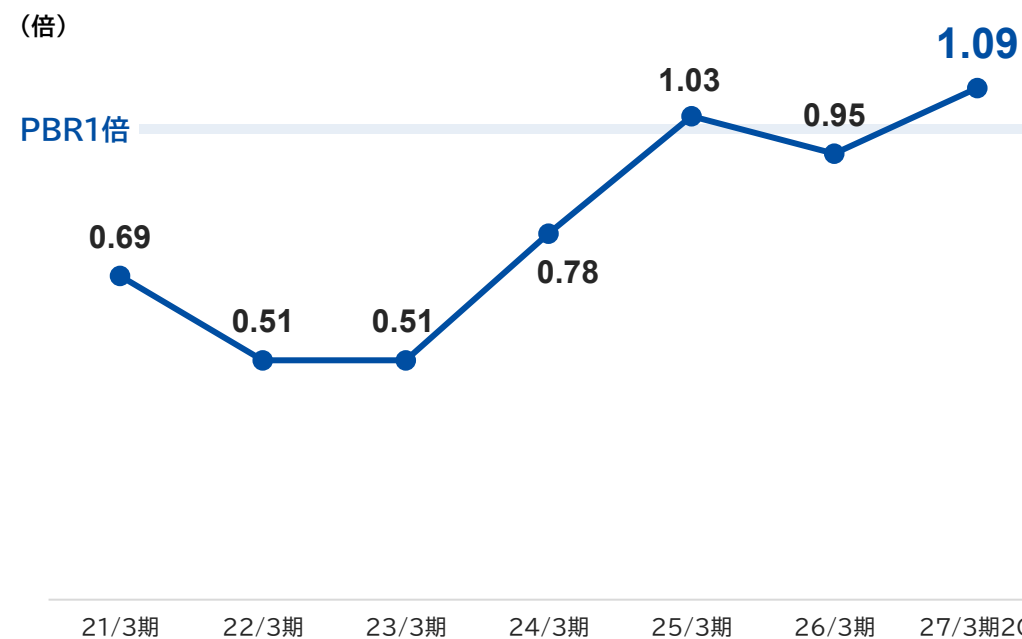
- ROE…7.6% (2027年3月期2Q累計利益を年率換算)
- PBR…1.09倍 (2026年9月末 1株当たり純資産1,554.64円 株価1,697円)

目標
未到達

ROEの推移



PBRの推移



ハイライト

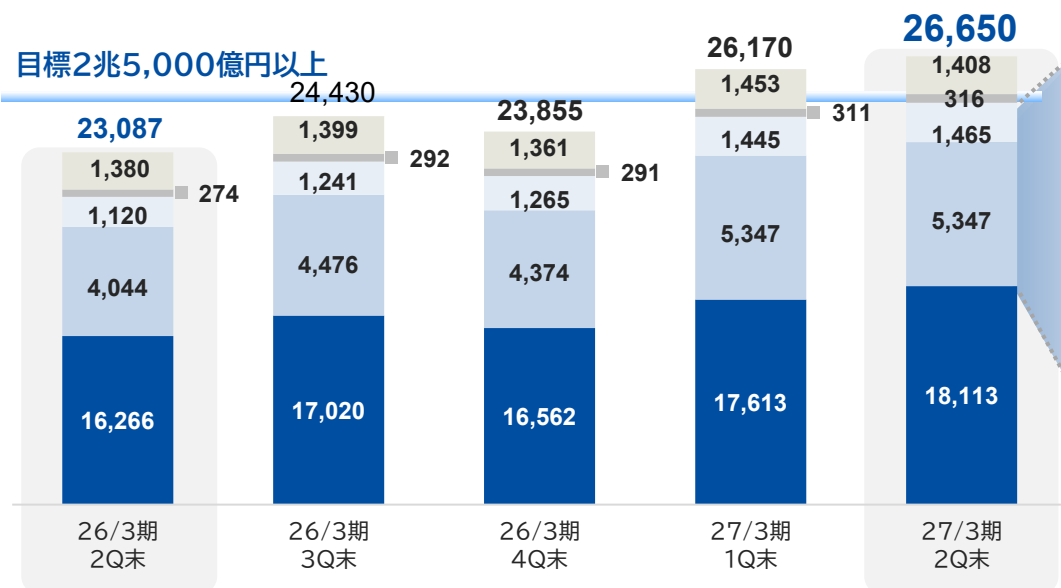
- 総預り資産は、ゴールベースアプローチ型営業とプラットフォームビジネスの推進により、前年同期(2026年3月期2Q)末比3,563億円増加(15.4%増)の2兆6,650億円となり、目標の2兆5,000億円を上回った
- スtock商品(投資信託とラップ商品)預り資産に関しても、上記の取組みにより同1,648億円増加(31.9%増)

※プラットフォームビジネスとは、アイザワ証券がプラットフォーマーとなり、提携する金融商品仲介業者(IFA業者)や預金金融機関が取引を媒介し、個人のお客さまにサービスを提供するビジネス

目標水準
到達

商品別 総預り資産

(億円) ■株式 ■投資信託 ■ラップ商品 ■債券 ■その他

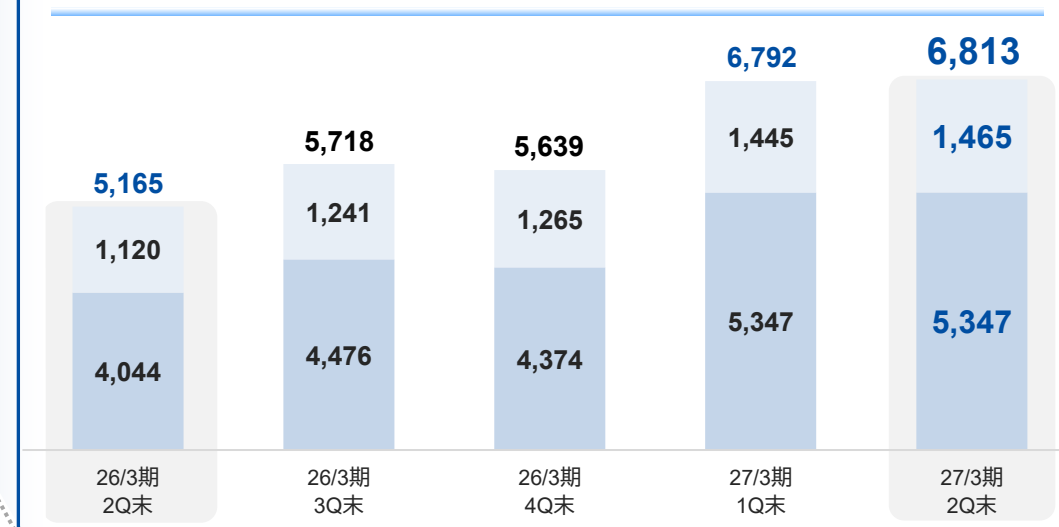
順調に
増加

商品別 スtock商品預り資産

26/3期2Q末比
1,648億円増
(+31.9%)

(億円) ■投資信託 ■ラップ商品

目標8,000億円以上



ハイライト

2027年3月期2Q累計の実質ストック収益^{※1} 実質販管費カバー率^{※2}は38.2%となり、前期(2026年3月期)比2.6pt増

- 実質販管費は、前年同期(2026年3月期2Q累計)より3億10百万円増の76億6百万円
- 実質ストック収益は、信託報酬及びラップ商品の成功報酬の増加に伴い、同7億32百万円増の29億2百万円

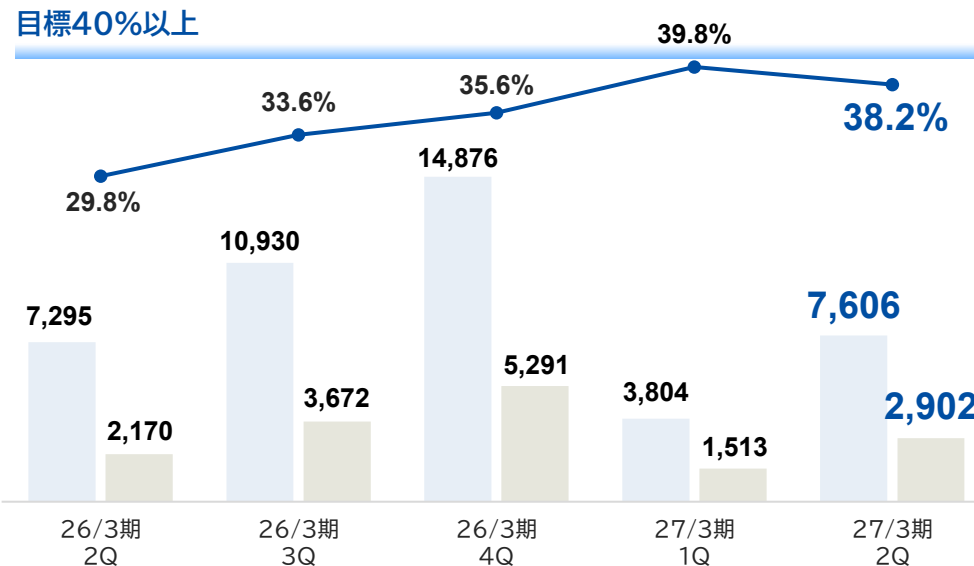
※1 実質ストック収益:信託報酬とラップ報酬の合計額から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料分を除外した収益額

※2 実質販管費:アイザワ証券の販売費・一般管理費から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料を除外した額

目標
未到達

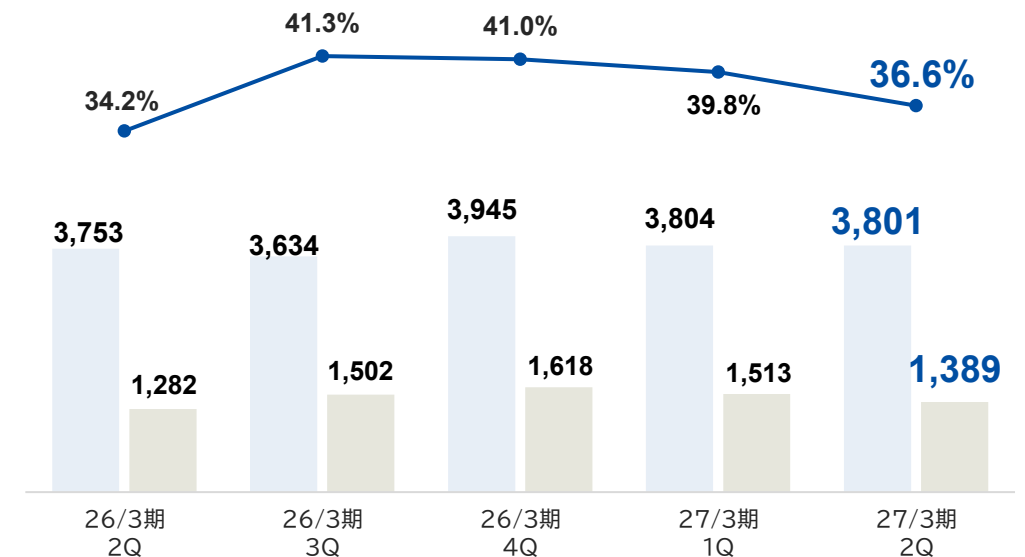
実質ストック収益 実質販管費カバー率の推移(年度累計)

(百万円) 実質販管費 実質ストック収益 実質ストック収益 実質販管費カバー率



実質ストック収益 実質販管費カバー率の推移(四半期別)

(百万円) 実質販管費 実質ストック収益 実質ストック収益 実質販管費カバー率



- 業務提携先企業との今後の連携強化のため、新入社員合同研修を実施
- ステークホルダーの皆さまに当社グループの取組みをより詳細にお伝えするため、統合報告書2026を発行

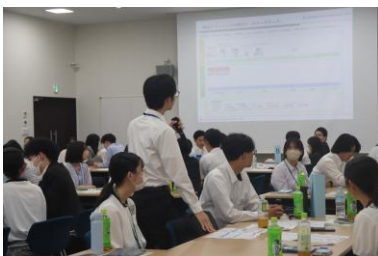
人的資本投資への 取組み強化

新入社員合同研修

アイザワ証券株式会社は、9月10日・11日に島田掛川信用金庫と、9月17日・18日に株式会社西京銀行と、それぞれ新入社員合同研修を実施しました。

アイザワ証券は、島田掛川信用金庫と2024年に顧客紹介に関する業務提携契約を締結。株式会社西京銀行とは2015年に包括的業務提携契約を締結しています。

今回の研修では、今後生じるお客さまのさまざまなニーズに対して円滑に連携できるよう、各社の取扱商品や提案手法について情報交換を行いました。



IR強化

統合報告書2026

アイザワ証券グループでは、ステークホルダーの皆さまに当社グループの持続的な価値創造に向けた取組みをご理解いただくため、統合報告書を作成しています。このたび、統合報告書2026を発行しました。

統合報告書2026

- アイザワ証券が目指すゴールベースアプローチ型営業について
- 「人事ビジョン」の策定と人材育成の強化について
- サステナビリティの基本方針、マテリアリティの策定
- 変革期におけるガバナンスについての対談

アイザワ証券グループホームページに掲載

https://www.aizawa-group.jp/ir/library/integrated_report.html



決算説明資料

2027年3月期 第2四半期(中間期)

Appendix

≡ アイザワ証券グループ

商号	アイザワ証券グループ株式会社
所在地	〒105-7307 東京都港区東新橋一丁目9番1号 東京汐留ビルディング
代表者	代表取締役社長 社長執行役員 藍澤 卓弥
創業年月日	1918年(大正7年)7月7日 (1933年(昭和8年)10月3日 設立)
資本金	80億円
従業員数(連結)	921名 ※2026年3月末時点

01

ゴールベース アプローチ型営業



一体的に
価値を提供

ゴールベースアプローチ型営業により、お客さまのライフプランに寄り添い、お客さまごとに達成したいゴールに向けたプランをご提供し、個別売買にとどまらないトータルサポートで資産運用・資産形成を伴走支援いたします。

ソリューション サービス



個人の相続、経営者の事業承継、法人のビジネス拡大、地域の課題等の幅広いニーズに対応し、個人・法人のお客さまの想いを叶えるために高度なノウハウを持つ専門家と連携し、オーダーメイド型のコンサルティングを提供いたします。

02

プラットフォーム ビジネス



ライフプランの実現に向けて伴走者を必要とするお客さまを有する、金融商品販売を本業としないIFA業者さまや金融機関さまに対し、金融商品販売に有益な情報提供とサポートを行うとともに、システム等を提供いたします。

企業理念

Purpose

私たちの存在意義

より多くの人に
より豊かな生活を

Vision

私たちのあるべき姿

資産運用・資産形成を通じて
お客さまとご家族の
人生の伴走者となる

Values

私たちが大切にする価値観

チャレンジ

行動力
成長
変革

リレーションシップ

信頼
思いやり
安心

プロフェッショナリズム

誠実
責任
使命感

チームワーク

調和
敬意
結束

事業戦略

証券事業の変革

投資事業のグレードアップ

運用事業の再構築

経営機能強化

コンプライアンスの
強化

人的資本投資の
取組強化

生産性の向上

リスク管理の
強化

サステナビリティ
推進

株主還元方針

特別配当

2026年3月期～2028年3月期まで
特別配当(年間1株70円)を実施

普通配当 &
自己株取得

前中期経営計画の方針を継続
普通配当及び自己株式取得は**総還元性向
50%以上**、普通配当は**株主資本配当率(DOE)
2%を超える**ことを基本方針とする

KPI 2028年3月期達成目標

ROE
(自己資本利益率)

8%以上

女性管理職
比率

15%以上

エンゲージメント
スコア

80%以上

ストック商品
預り資産

8,000
億円以上

総預り資産

2兆5,000
億円以上

実質ストック収益
実質販管費カバー率

40%以上

企業価値向上

資本コストや
株価を意識した経営

企業理念

Purpose

私たちの存在意義

より多くの人に
より豊かな生活を

Vision

私たちのあるべき姿

資産運用・資産形成を通じてお客さま
とご家族の人生の伴走者となる

Values

私たちが大切にする価値観

チャレンジ

リレーション
シップ

プロフェッショ
ナリズム

チームワーク

アイザワ宣言

お客さま、株主の皆さま、社会、従業員の皆さんへのコミットメント

人事
ビジョン

社員一人ひとりがやりがいを持って生き活きと働ける会社を創ります

当社は、社員一人ひとりが“アイザワ人材”として、自ら考え自律的に行動し、新しい価値を創造する“挑戦”を支援します

人事の基本的な考え方

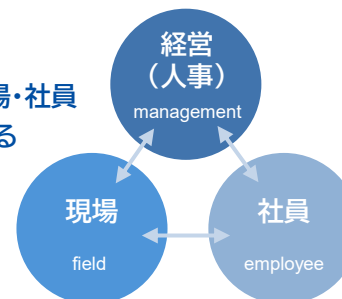
社員一人ひとりが「目指す社員像」となるよう
公正な人事制度を策定する

- 働きがい
自律的にキャリアを形成できるような制度の構築
- 働きやすさ
互いに認め合い(共感力を高める)、安心して働ける職場環境づくり

人事施策

経営(人事)・現場・社員
が三方よしとなる

3つのバランスが重要



目指す社員像

アイザワ人材

当社が大切にする価値観である
Values(チャレンジ、リレーションシップ、
プロフェッショナルリズム、チームワーク)
を体現している人材



企業理念

Purpose

私たちの存在意義

より多くの人に より豊かな生活を

Vision

私たちのあるべき姿

資産運用・資産形成を通じて
お客さまとご家族の人生の伴走者となる

Values

私たちが大切にしている価値観

チャレンジ | リレーションシップ | プロフェッショナリズム | チームワーク

アイザワ宣言

お客さまへ

私たちはお客さまの未来を見据えた
金融サービスを提供します

解決を目指す社会課題

資産格差の是正／高齢化社会への対応／
資産形成、相続・資産承継支援

株主の皆さまへ

私たちは持続的な成長を通じて
企業価値向上に努めます

解決を目指す社会課題

ガバナンス体制の強化／資産収益性の向上／
適切な開示による透明性の確保

社会へ

私たちは地域との繋がりを大切に
社会の発展に貢献します

解決を目指す社会課題

地域経済の活性化／金融リテラシーの向上／
環境の保全

従業員の皆さんへ

私たちは社員一人ひとりを尊重し
成長と挑戦を後押しします

解決を目指す社会課題

多様性の尊重／成長できる機会の創出／
安心して働ける職場環境の構築

サステナビリティ推進

サステナビリティ基本方針

地域社会に伴走し より多くの人と
地域とともに成長していく

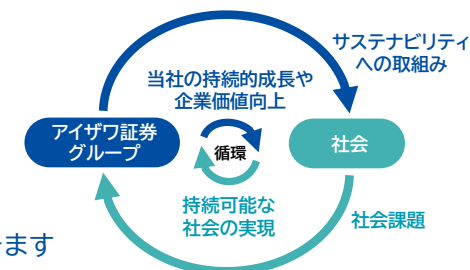
マテリアリティ

さらなる100年に向け 変革を重ね選ばれ つづける会社へ	ステークホルダー との対話に努めより 信頼される存在へ	金融リテラシー教育 を通じて安心できる 暮らしの実現へ	社会の一員として 使命感をもつ 伴走者へ	環境と調和の とれた地域社会を 次世代へ	互いの価値観に敬意を 持ち自律的成長を 支援できる会社へ
------------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	----------------------------	----------------------------	------------------------------------

中期経営計画(2025年4月～2028年3月)

中長期的な企業価値向上を目指す

当社は、サステナビリティの取組みを誠実に積み上げていくことで、
社会課題の解決に寄与し、社会と当社が持続的に成長していく循環を構築していきます



資産の部(百万円)	26/3期末	27/3期2Q末	増減率
流動資産	81,770	98,361	+20.3%
現金・預金	24,239	38,529	+59.0%
預託金	27,008	30,393	+12.5%
営業投資有価証券	10,949	10,603	△3.2%
トレーディング商品	135	134	△0.8%
約定見返勘定	1,521	2,417	+58.9%
信用取引資産	15,306	12,885	△15.8%
信用取引貸付金	15,128	12,753	△15.7%
立替金	278	596	+114.2%
その他の流動資産	2,330	2,799	+20.1%
固定資産	42,554	46,783	+9.9%
有形固定資産	11,247	11,275	+0.2%
賃貸不動産	9,299	9,307	+0.1%
無形固定資産	40	37	△7.8%
投資その他の資産	31,265	35,470	+13.4%
投資有価証券	28,532	32,760	+14.8%
資産合計	124,324	145,145	+16.7%

負債・純資産の部(百万円)	26/3期末	27/3期2Q末	増減率
負債の部			
流動負債	61,853	81,222	+31.3%
トレーディング商品	48	108	+123.2%
信用取引負債	2,353	3,653	+55.2%
信用取引借入金	2,033	3,384	+66.4%
有価証券担保借入金	2,009	819	△59.2%
預り金	30,329	50,023	+64.9%
顧客からの預り金	21,147	23,515	+11.2%
その他の預り金	9,182	26,508	+188.7%
受入保証金	4,324	3,771	△12.8%
短期借入金	7,512	7,511	△0.0%
短期社債	12,085	12,095	+0.1%
固定負債	11,797	12,269	+4.0%
長期借入金	5,315	5,145	△3.2%
繰延税金負債	5,986	6,619	+10.6%
特別法上の準備金	187	202	+8.0%
金融商品取引責任準備金	187	202	+8.0%
負債合計	73,837	93,693	+26.9%
純資産の部			
株主資本合計	35,321	35,049	△0.8%
利益剰余金	27,925	27,557	△1.3%
その他の包括利益累計額	12,163	13,516	+11.1%
その他有価証券評価差額金	11,174	12,409	+11.1%
非支配株主持分	3,001	2,885	△3.9%
純資産合計	50,486	51,451	+1.9%
負債・純資産合計	124,324	145,145	+16.7%

(百万円)	2Q	26/3期 3Q	4Q	27/3期 1Q	27/3期 2Q	26/3期 2Q比 増減率	27/3期 1Q比 増減率	26/3期 2Q累計	27/3期 2Q累計	前年同期比 増減率
セグメント別営業収益連結計	5,695	5,609	5,426	5,812	5,882	+3.3%	+1.2%	9,937	11,695	+17.7%
証券事業	5,417	5,446	5,189	5,660	4,834	△10.8%	△14.6%	9,491	10,495	+10.6%
投資事業	236	185	242	150	1,003	+323.9%	+568.2%	404	1,154	+185.0%
運用事業	78	27	46	40	197	+152.6%	+391.5%	120	237	+96.8%
その他調整	△37	△49	△52	△38	△153	-	-	△79	△191	-
セグメント別営業利益連結計	349	319	△66	238	470	+34.7%	+97.3%	△226	708	-
証券事業	525	625	162	483	62	△88.0%	△87.0%	266	546	+104.9%
投資事業	△183	△190	△211	△93	461	-	-	△320	368	-
運用事業	△51	△111	△71	△66	63	-	-	△182	△2	-
その他調整	58	△3	52	△84	△118	-	-	9	△202	-
セグメント別税引前利益連結計	1,172	1,462	1,132	1,297	1,405	+19.8%	+8.3%	1,561	2,702	+73.1%
証券事業	509	498	87	474	33	△93.5%	△93.0%	281	507	+80.1%
投資事業	396	477	938	574	1,112	+180.7%	+93.7%	1,142	1,687	+47.7%
運用事業	△50	△102	△52	△65	56	-	-	△188	△8	-
その他調整	317	588	160	314	202	△36.1%	△35.5%	325	517	+58.8%

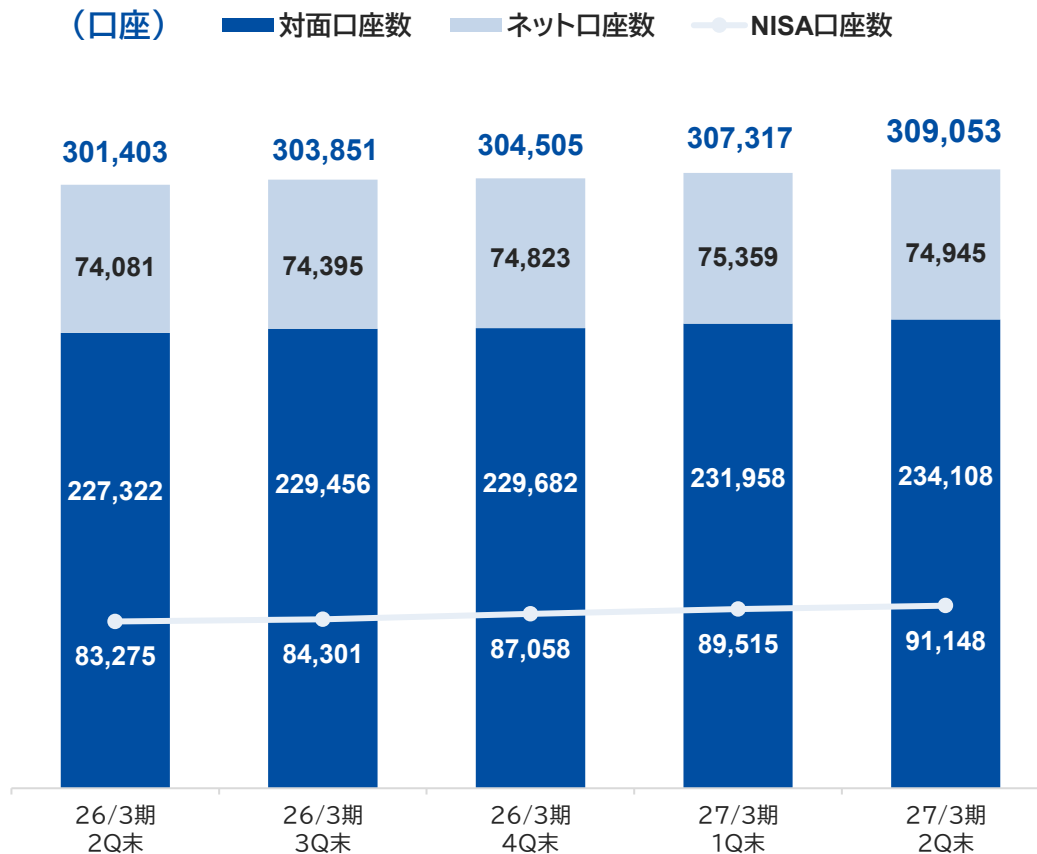
(百万円)	26/3期			27/3期		26/3期	27/3期	26/3期 2Q累計	27/3期 2Q累計	前年同期比 増減率
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	2Q比 増減率	1Q比 増減率			
営業収益	5,695	5,609	5,426	5,812	5,882	+3.3%	+1.2%	9,937	11,695	+17.7%
受入手数料	4,355	4,479	4,605	4,902	4,163	△4.4%	△15.1%	7,629	9,066	+18.8%
委託手数料	1,960	1,976	1,842	2,203	1,401	△28.5%	△36.4%	3,393	3,605	+6.3%
引受・売出	32	0	1	2	2	△93.3%	+4.8%	34	4	△87.7%
募集・売出	834	798	895	863	1,047	+25.5%	+21.3%	1,620	1,911	+17.9%
その他	1,527	1,703	1,865	1,833	1,712	+12.1%	△6.6%	2,580	3,545	+37.4%
トレーディング損益	813	699	313	512	375	△53.9%	△26.8%	1,461	887	△39.3%
株券等	696	599	225	405	326	△53.2%	△19.4%	1,253	731	△41.6%
債券等	39	36	40	37	6	△83.6%	△82.5%	45	43	△3.0%
為替等	77	62	47	69	42	△45.4%	△39.3%	162	112	△31.2%
金融収益	294	251	270	253	306	+3.8%	+20.9%	453	559	+23.3%
その他の営業収益	231	179	236	144	1,037	+348.8%	+617.5%	393	1,182	+200.4%

(百万円)	2Q	26/3期 3Q	4Q	27/3期 1Q	27/3期 2Q	26/3期 2Q比 増減率	27/3期 1Q比 増減率	26/3期 2Q累計	27/3期 2Q累計	前年同期比 増減率
営業収益	5,695	5,609	5,426	5,812	5,882	+3.3%	+1.2%	9,937	11,695	+17.7%
株式	2,825	2,755	2,247	2,816	1,894	△32.9%	△32.7%	5,006	4,711	△5.9%
委託手数料	1,960	1,976	1,842	2,203	1,401	△28.5%	△36.4%	3,393	3,605	+6.3%
トレーディング損益・ 金融収益等	864	778	405	612	492	△43.0%	△19.5%	1,613	1,105	△31.5%
投資信託	1,572	1,607	1,734	1,785	2,039	+29.7%	+14.2%	2,973	3,824	+28.6%
募集手数料	834	798	895	863	1,047	+25.5%	+21.3%	1,620	1,911	+17.9%
信託報酬等	737	808	838	921	991	+34.5%	+7.6%	1,352	1,913	+41.4%
ラップ商品	647	804	925	821	625	△3.4%	△23.8%	996	1,446	+45.2%
固定報酬・信託報酬	291	313	330	350	389	+33.3%	+11.0%	568	739	+30.2%
成功報酬	355	491	595	470	236	△33.5%	△49.7%	428	707	+65.2%
債券	41	38	42	40	9	△78.3%	△77.5%	49	49	△0.5%
不動産	127	124	126	131	138	+8.5%	+5.5%	253	269	+6.4%
営業投資有価証券	103	55	110	13	899	+767.8%	—	140	912	+551.2%
その他	377	224	238	205	276	△26.8%	+34.7%	518	481	△7.2%

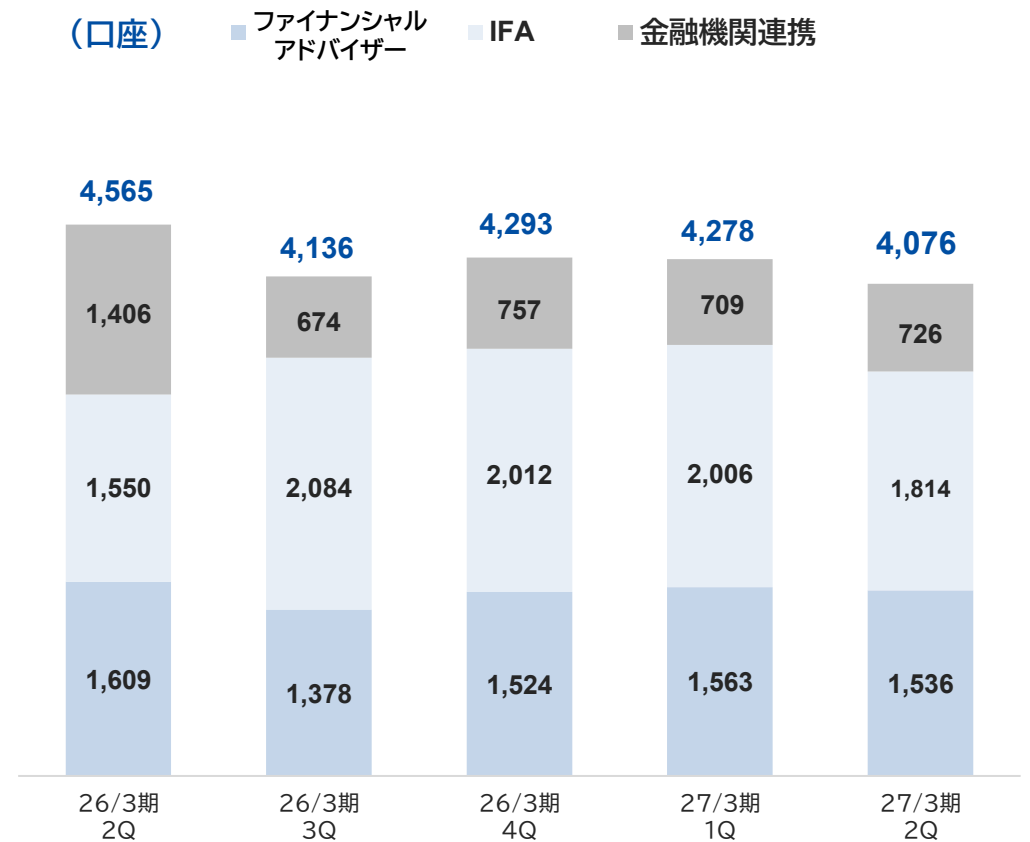
(百万円)	2Q	26/3期 3Q	4Q	27/3期 1Q	27/3期 2Q	26/3期 2Q比 増減率	27/3期 1Q比 増減率	26/3期 2Q累計	27/3期 2Q累計	前年同期比 増減率
販売費・一般管理費	5,097	5,033	5,172	5,444	4,983	△2.2%	△8.5%	9,673	10,428	+7.8%
取引関係費	1,318	1,370	1,208	1,521	1,155	△12.3%	△24.0%	2,294	2,677	+16.7%
人件費	2,416	2,324	2,461	2,537	2,442	+1.1%	△3.8%	4,676	4,979	+6.5%
不動産関係費	373	343	393	349	342	△8.4%	△2.2%	746	692	△7.3%
事務費	686	693	738	710	709	+3.4%	△0.1%	1,373	1,420	+3.4%
減価償却費	85	79	154	92	96	+13.1%	+5.2%	167	189	+13.0%
租税公課	112	98	93	123	133	+18.7%	+7.6%	191	257	+34.4%
その他	105	123	121	109	103	△1.0%	△4.7%	223	212	△4.8%

(百万円)	2Q	26/3期 3Q	4Q	27/3期 1Q	27/3期 2Q	26/3期 2Q比 増減率	27/3期 1Q比 増減率	26/3期 2Q累計	27/3期 2Q累計	前年同期比 増減率
営業外損益	96	178	125	208	96	△0.2%	△53.7%	335	305	△8.9%
営業外収益	157	240	204	291	192	+22.4%	△34.0%	456	484	+6.0%
営業外費用	60	61	78	82	95	+58.5%	+16.0%	120	178	+47.6%
特別損益	726	963	1,073	850	838	+15.4%	△1.4%	1,452	1,688	+16.2%
特別利益	734	1,241	1,162	866	837	+14.0%	△3.3%	1,460	1,703	+16.6%
特別損失	7	278	89	15	△1	—	—	7	14	+87.1%

総口座数の内訳とNISA口座数の推移

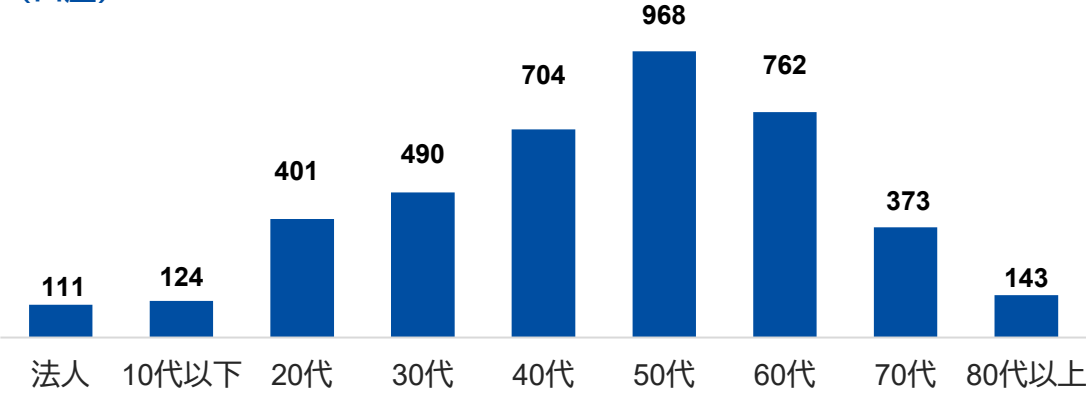


新規口座数の内訳と推移



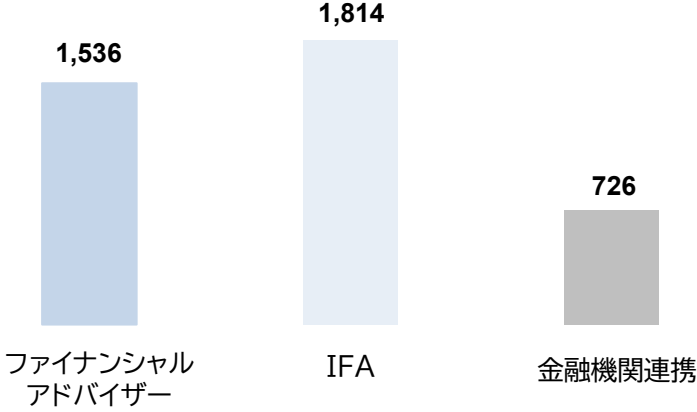
年代別新規口座数

(口座)



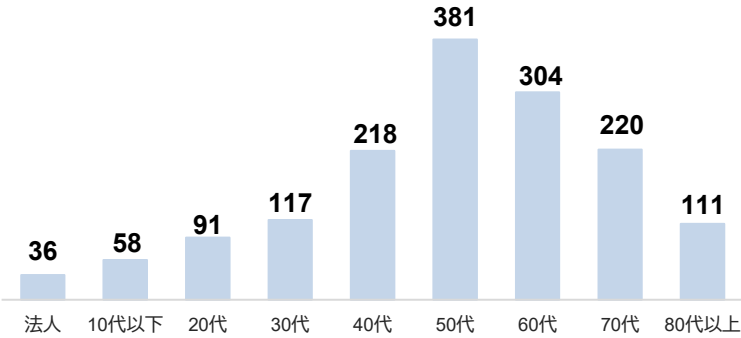
部門別新規口座数

(口座)



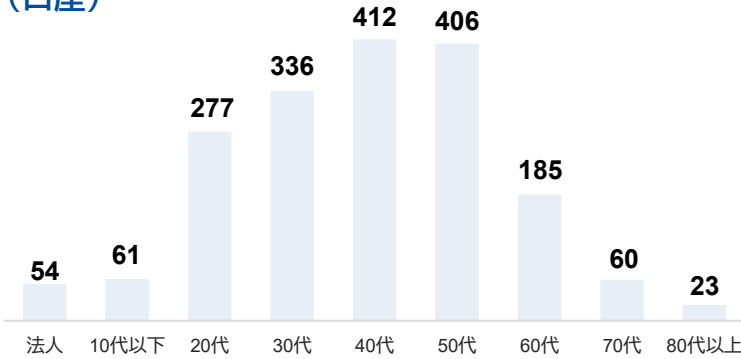
年代別新規口座数(ファイナンシャルアドバイザー)

(口座)



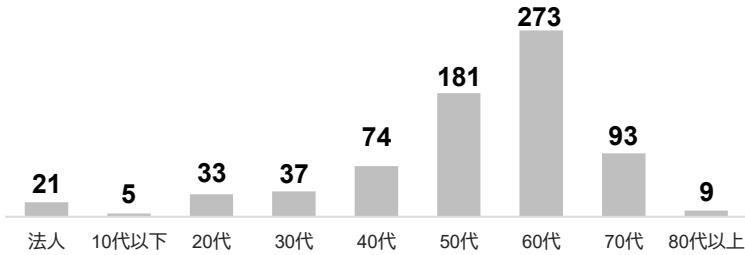
年代別新規口座数(IFA)

(口座)



年代別新規口座数(金融機関連携)

(口座)



アイザワ証券グループ

お問合せ先

アイザワ証券グループ株式会社 経営企画部

E-MAIL ir@aizawa-group.jp

URL <https://www.aizawa-group.jp/>